

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム (2015.2) 15,1:123-124.

本学教員執筆書籍の紹介 「あてて見るだけ！劇的！救急エコー塾」

鈴木 昭広

本学教員執筆書籍の紹介

鈴木昭広 (麻酔科 准教授) 編集

「あてて見るだけ！ 劇的！ 救急エコー塾」

羊土社 2014年2月 A5版 189ページ 価格3600円+税

鈴木昭広

編者は17年間の麻酔科生活の中で、医療過疎地への麻酔出張などを行っていた。ある日の午前、出張先病院で患者熱発の為手術が中止となり、医局で新聞や雑誌を読んでいたのんびりと過ごしていたのだが、のちに、その時間帯に常勤の外科医が急患対応のために外来を止め、来院済みの患者を50名近く待たせながら、救急車で運ばれてきた院外心肺停止患者の対応を行っていた事実を聞いた。この一件は私にとって、「医療過疎地に出張に来たのであれば、専門業務としての麻酔だけではなく、現地の患者と常勤医師のために、一人の医者としてもっとできることがあるのではないか？」と自問自答するきっかけとなった。麻酔科医は麻酔中に各種の急変対応スキルを実践しており、その技術は術前や術後の世界に幅広く役立てられるはず、との思いから、医局に無理を言って5年間の救急集中治療に専従する機会を得ることとなった。本書は、お世話になった医局と救急集中治療部への感謝をこめ、40過ぎてから救急武者修行を行わせていただいた仕事の集大成といえるものである。

救急部配属後の生活の中では救命センターの立ち上げ、DMAT隊員の登録と各種演習活動、東日本大震災での災害医療派遣など、まさに“タイミング”、としかいいようのないほど貴重な経験を数多くさせていただいた。中でも、道北ドクターヘリ活動は、麻酔科に戻った今も継続させていただいているライフワークであるが、ヘリで駆け付けた現場で、X線もCTもとれない環境では超音波でいかに情報をとるかが患者の生死を分ける。そこで麻酔科時代に心臓麻酔で培った経食道超音波の資格を眠らせることなく新たな分野を切り開こう、との思いで、①救急外来ですぐに役立つ超音波テクニック、②日本ではまだなじみのない利用法や、③だれもやっていないような超音波の新しい使い方を模索し続け、麻酔科医が得意とする気道、呼吸、

循環、意識変容などの急変事態を超音波で解決する方法を見出す、探し出すことを自分の臨床テーマに日々のセンター業務に従事した。センタースタッフと共に救急外来常設の超音波装置を使い続けた5年間は、そのハードディスクを画像データでいっぱいにするのに十分な時間であった。

せっかくのアイデアと貴重な映像データを自分たちだけで使うのはもったいない、との思いから雑誌社に掛け合い、研修医向けに毎月15000部の発行部数を誇る「レジデントノート」に特集号を掲載する機会をいただいた。卒後臨床研修医の採用が10人を割る“どん底”の状況にあった当時、この企画で編者が最も強く意識したのは、“**Not from Tokyo, but Asahikawa**”であった。なんとなく都会を向いている若者の目を旭川に向けさせるためには、全国に800以上ある研修病院の中で旭川医大を目立たせる必要がある。そこで特集号では当時救急部にご協力いただいていた科の中から、総合診療部の野津先生(虫垂炎)、第3内科長谷部先生(胆石胆のう炎)、救急部稲垣先生(中心静脈穿刺)、麻酔科田中先生(肺エコー)にも執筆協力を仰ぎ、また旭川医大の卒業生である沖縄の岩永先生、野崎先生(水腎症)にも参加いただき、旭川医大カラーを強く打ち出すことを意識した。さらに、雑誌に単発の特集記事ではインパクトが大きくないことから、継続的な読者への意識づけのために、その後の連載記事の掲載にこぎつけた。連載では、気道のエコー、胃のエコー、軟部組織、骨折エコー、下肢静脈血栓やお手軽心エコーなど、現在世界中で注目されている **Point of Care ultrasound** に類するものを取りあげ、足掛け3年を経て1冊の本としてまとめることができた。

幸いにも本書は好評なようで、研修医サイトM2plusの電子書籍部門では発売以来ベストセラーに選出され、Amazon.co.jpでも臨床医学一般で「今日の

治療薬」に次ぐ売り上げ第2位を獲得した（←おそらく瞬間風速的なものですが）。また、本書籍の発刊を契機とし、医療情報サイト m3.com の医療クイズへの出題、雑誌「救急医学」への超音波プロモーション記事の定期掲載などの依頼もいただき、微力ながらメディアを利用した旭川医大の知名度向上に貢献できているものと考えている。さらに全国の有志を募って ABCD sonography という団体を立ち上げ、2014 年秋より全

国でお手軽超音波を広めるワークショップの展開を開始している。

本学は先輩方の苦勞を経て設立から 40 年を迎えた。数ある地方医科大学の中から頭ひとつ抜け出す起爆剤のひとつとして本書をご紹介いただき、初期・後期研修医の希望者増加の一助となれば、と目論んでいる次第です。